**⑧　戦争の変容**

メアリー・カルドー『新戦争論―グローバル時代の組織的暴力』2003年、原書1999年

**Ⅰ．「旧い戦争」（第2章）**

→近代に形成された合理的手段としての戦争

15世紀以降の欧州において、戦争は、中央集権的で、「合理的」とみなされ、階層的に秩序付けられた領土に基づく【近代国家】を建設するためのものと考えられてきた。

→近代国家が重要だべ。

１．戦争と近代国家の登場

　国家の統制下におかれた【常備】軍の確立：【正統的】な暴力の独占

　　→絶対王政下では傭兵では不十分と判断された

→それ以外は暴力は使わせねぇ

→手段としてのもの

　国家の【　利益　】が戦争を遂行する正当な理由となった

→暴力集団が常備軍として扱われる

18世紀末：【　国家　】活動としての戦争という概念が確固たるものとして確立

→国家は自由市場には介入しない

→制御のために関与する

　新たな区別：1)公（【　国家　】の活動領域）と私、2)国内と国外、3)経済と【　政治　】、

国家の仕事→公共財、司法の運営、国防、

4) 民事と【　軍事　】、5)戦闘員と非戦闘員、6)戦争と【　平和　】

5)→戦闘員同士の戦い

→情感による統制

２．19世紀の近代戦争：国家間戦争、型にハマった戦争

　ナポレオン戦争：最初の【　国民　】戦争　【　徴兵　】制の導入　116万9000人の兵力→　すげー兵力、→　プロシア、ドイツのいろいろな諸国、

→冬によって食料とかの補給が途絶えてしまった。

→わざと自分の首都に入り込ませて補給戦とかを入り込ませた。

→被害者としてのIdentityがいろんな地方で覚醒

→Identityの覚醒が激しかった。→自分は国民の一員であるというもの

→国民というIdentityを持ち始める。

→これによって欧州諸国の終結がしやすくなった。

→ナポレオン戦争→新たな取り組みができるように・

→缶詰→軍隊が補給をするためにあるもの、もともとは

→そういったものを取り入れる

→師団を導入

→大きな組織を作っていった。

→19Cまで進んでいくと、産業革命が起こる。

→劇的な進歩

1. 産業技術の劇的な進歩：1)【　鉄道　】と電信の発達、迅速な兵力動員（普仏戦争）

→消化器の大量生産

→南北戦争

→大量のライフルが使われた

→

　　　2)小火器の【　大量　】生産（南北戦争）

　②同盟関係の重要化：同盟関係は【　強固　】なものへ

1. 【　戦争　】法の法典化：戦争が国家による合理的な政策手段であるという前提

→

３．20世紀の総力戦

　①前半の総力戦：【　　総動員　】化　【　大量　】破壊(産業革命の影響　【　区別　】の瓦解

1. 国家【　利益　】からの正当化が困難：悪との戦い　【　　　　イデオロギー　　】間の闘争
2. 【　武器　】の効用の低下：大規模な火力　戦車・戦闘機　【　高額　】化　核兵器

戦車一台１０億円

1. 国境を越えた【　　軍事力　】の統合：単独での【　　　戦争遂行　】は困難化　主従関係

　　　【　　国家間　】戦争の減少　【　戦争　】と【　平和　】の区別の弱体化（冷戦）

→日米同盟でも当てはまる

→攻撃を行う、攻撃的な効力はない

→日本の軍隊はあてにして作られている

**Ⅱ．「新しい戦争」の政治（第4章）**

　【 1980 】年ごろからのグローバル化の新しい段階　【　　情報通信　　】技術革命による影響

→冷戦の終結ではない！！！！

１．グローバリゼーションの特徴

　①経済分野：1)【　大量　】生産の重要性の低下、2)市場の【　専門家　　】と多様性の高まり

→ex、フォードの大量生産あ

→現代は複数種類の生産を行っている

→

　　3)金融と技術のグローバル化、

②ガバナンスの【　脱国境　】化と地域化：1)国際機関や省庁間関係、2)地域の政治の復権、3)国境を超えた非公式な【非政府】ネットワーク

③組織形態：1)水平的な【　国境　】を越えた連繋関係の形成、2)民営化・半民営化

④社会構造：1)【　労働者　】階級の衰退、大陸間・国家間格差、【　国内　】格差

2)文化的な階層化　【　　グローバル　　　】な共同体の一員　⇔　そこから排除された人びと

→国もある程度→分極化が行われている

２．アイデンティティ・ポリティクス　⇒民族紛争（1990年代バルカン・コーカサス）

　定義：国家【　権力　】を掌握するために、民族的、人種的あるいは宗教的【　　　　　Identity　　　】を中心として人びとを【　動員　　】する動き

1. アイデンティティに基づく【　政治　】的権利の要求　≠　文化的・宗教的権利の要求

→冷戦が終わると主張し始めた

1. 特徴：【　分裂　】を促す　後ろ向き(国家統合とは逆向き)で【　排他　】的　⇔　理念による政治

　③源泉（グローバル化と関連）：1)政治的【　　正当性　】の喪失への反動　左派の衰退

2)【　二重　】経済　新自由主義的政策の所産　いかがわしい活動の正当化

→違法な活動をする団体の取り締まり

1. 新しい政治：1)垂直的・水平的、国家的・脱国境的　【　離散民　】の役割

→難民とかが外に出ていく

→たくさんのアフリカ人

→テロ集団

　　2) 政治的【　動員　】を行う能力の強化

→Identityの強化

→自分を有効利用

３．コスモポリタニズム対自集団中心主義

　①自集団中心主義：領域主権の弱体化、内向きで無秩序な【　小国家　】群の登場

→小さい単位で集まろうぜ的な流れ

　②コスモポリタニズム：【　普遍　】主義と【　多様　】性

源泉：1)国際組織の増加、2)社会運動やNGO

　③両者は、同一の地理的空間の中で、隣り合わせになって【　共存　】

**Ⅲ．現代の安全保障環境と戦略**

１．ウプサラ紛争データプログラム（UCDP）　図表「種類別の武力紛争、1946-2015年」

　武力紛争：少なくとも一方は国家の【　政府　】である二つの集団間における武力の行使が暦年において少なくとも【 25 】人の戦闘に関連した死者を出した、【　政府　】または【　領土　】に関して争いのある対立

種類：1) 領土外紛争（国家vs非国家）、2) 国家間紛争、3) 国際化した内戦、→ex シリア　4) 内戦　→　太平洋戦争

→近代国家の建設、産業革命が近代国家の形成を行なっていっている。

２．国家安全保障戦略　『白書』463-464, 63-64

　グローバル化の進展や技術革新の急速な進展⇒【　非国家　　】主体の相対的影響力の増大

→国際テロの脅威

→グローバル化の進展により、国際テロの多様化が進んでいる

→国家間の相互依存関係の進化→リスクの高まり

→相互依存関係のデメリット

→64Pageの右側

→インターネットやソーシャルメディアの発信力やなどが起こる。

→情報通信ネットワークにより、発信していく

→より困難になっていく。

→国際社会にとっては対応がよりこんなになっている

質問コーナー

→新しい中世が始まろうとしている

→近代は主権国家の時代

→中世ってどんな時代？→国境は不明確な時代

→貢献領主→江戸時代、→徳川幕府

→行政をしていく

→薩摩がイギリスと戦争を行う

→主権国家の独占状況が高まっていく

→EUみたいな主権国家が束るようなもの

→主権国家だけでまとまられるようなもの

→主権国家が弱まってきて、グローバル化が進んでいく。

→21世紀以降も説明できる

②大量生産はなかなかできなくなってきている

→労働者は組合を作っていく

→社会党を作っていく

→労働組合の組織率もよくなってきている

→海外に住んでいる人々も

1. イデオロギーorアイデンティティ

→最近の民族紛争はどっち？

→20世紀の一つの目標、統一が

→千九百九十年代になると、ユーグズラビア

→コソボ、クロアチアなどのアイデンティティが重要になってくる

→ISとか→宗教的な過激な憎悪を燃えたぎらせるもの